

「関東支部総会、特別講演会」開催される

企画総務グループ幹事

高橋 一紀（日本技術開発㈱）

平成17年4月15日午後3時からJGS会館において、支部総会、特別講演会が開かれました。なお、総会内容の詳細は関東支部ホームページに掲載する予定ですので、そちらをご参照してください。ここでは、その概要について私見を含めて記しました。

平成17年度支部総会では、支部規定改正（案）や平成16年度事業報告、収支決算ならびに平成17年度事業計画について審議されました。事業報告については、講演会、見学会など延べ35回のイベントを開催し、約2200人の会員・非会員の参加を得ることができたことなどが報告されました。なかでも、高校出張講座が大変好評であり、すでに今期の実施に対する強い要望が各校から届いていることなどは、活動の成果のひとつとして高く評価されると思います。

事業計画（案）については、これまでの活動の質をさらに高めて、新しい活動を展開することを基本方針として、建設フェスタ（茨城県建設業協会主催）や、「”彩の国”市民科学オープンフォーラム」への参加や、横浜市職員向け研修「地震に強いヨコハマにするために」への講師派遣などの新しい企画が検討されていること、新技術・新工法の評価や普及方策に関する技術相談を法人会員サービスとして公開で実施する予定であることなどが報告されました。さらに、これらの事業の内容と成果を広く発信し、市民との対話や会員との意見交換ができるように、ホームページの改良・更新やメーリングリストの整備を進めることなども新たな活動の進展を示しているものと思います。

京都大学の嘉門雅史先生による特別講演会「建設発生土等のリサイクルと遭遇型地盤汚染への取り組み」は、建設発生土のリサイクルにおける最新情報と今後の課題などが解説され、遭遇型地盤汚染多発の背景には目に触れないところ(Not be near site)への処分となりがちになる人間の習癖にあることなども指摘されました。また、土壌環境基準設定の意味合いのほか、鶴見川多目的遊水地の複合汚染の状況と対策について詳細に解説されました。さらに、9月に開催される第16回国際地盤工学会議（ICSMGE主催）大阪会議が、「災害と地震」をテーマとした一般市民向け講演の開催や三峡ダム、関西国際空港に関する報告も含まれていて、専門以外の人たちにも興味を持てる内容となっていることなども合わせて紹介されました。

講演会後の懇親会に先立っては、長期会員である千鈺エンジニアリング㈱、石川綜合技研㈱、関東土質試験協同組合、東亜合成㈱機能製品事業部に対しての表彰がなされ、太田会長から代表者に賞状、盾、記念品が贈呈され、会場から盛大な拍手を浴びました。

懇親会は、50人以上の方々の参加をもって始まり、石原支部長からは、翌日放送予定のNHKスペシャルに明治に活躍された土木技術者である田邊朔郎氏にも焦点があたることなどが紹介されたりと、有意義で盛会な懇親会が最後まで続きました。